初めての体育の時間に「王様ジャンケン」

1、最初の体育で「王様ジャンケン」をする

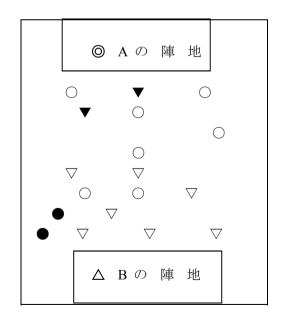
わたしは、今から19年前に高石小学校に赴任したが、その何年目か6年生のクラスを担任したときから、「王様ジャンケン」という集団鬼ごっこを始めている。

大阪支部では、黒井(?) さんが「チャンバラ鬼ごっこ」を紹介されている頃で、児童に「チャンバラ鬼ごっこ」を紹介したり「戦略戦術」の話をしていた。

子どもたちと一緒に「鬼ごっこ」をしていて、ゲームのルールを変更している過程で「王様ジャンケン」が生まれたのか、子どもの誰かがどこからか仕入れてきたのか、今となっては、定かではない(作ったような記憶あり)。 <図1>

2、ルールを説明しよう

- ①○チーム(赤)対▽チーム(白)に分かれる。
- ②◎は○チームの王様で、△は▽チームの王様。
- ③相手チームの人の体にタッチするか、相手チームの人にタッチされると、その場で、ジャンケンをする。ジャンケンに負けたら、アウトでその場に座る(動けない)。勝ったら、そのまま自由に動ける。
- そのまま自由に動ける。 ④味方の王様に「タッチ」してもらう と、また自由に動くことができる。



⑤王様も相手にタッチされるとジャンケンをする。王様がジャンケンに負

けるとチームの負けとなる。相手チームの王様にジャンケンで勝つと勝ち。 ⑥チームの陣地内は安全地帯。しかし、チームの動ける人全員が安全地帯 に逃げ込んだら負け。(図1で黒色は、ジャンケンに負けて動けない人)

3、戦い方

- ①ジャンケンをすれば、勝つ確率は 0.5。2回に一回は負ける。味方が「動ける人」が多くて優勢でも、王様が負ければ、負け!。王様はジャンケンをしない方が良い。
- ②アウトになった味方を早く王様は助けなければ味方は不利となる。
- ③「①と②」の矛盾をどう克服するか!が、そのチームの戦術。

4、実は、「王様ジャンケン」は、ボールのない球技で、球技のおもしろ さの重要な部分=戦術合戦を楽しむ遊びなのだ!

児童のボール操作能力には、必ず能力差はある。苦手な児童は球技をしたがらないのは、ボール操作の差が原因である。事実、上手な子は何度もボールに触れるし、未熟な子はあまり触れないから、ただ、ゲームをさせているだけだと、能力差は広がるばかり!

5. 遊び時間に「ドッジボールで遊ぶ」、「遊ばない」は、子どもたちに任せるが、全員参加が前提な学級遊びでは、「ドッジボール」はしない。 (子どもたちで、能力差を埋める取り組みができるなら別)。

教師から、『「未熟な子が巧くなり、 上手な子も退屈しない教材を開発した り、指導法を学んで」みんなが「うまく」 なる』ように日々努力していることを子 どもたちに伝えることが大切。

6、「図2」は、どちらが有利か、おわかり?

当時の6年生のゲーム様相です。 (於体育館)

